



RICH CASH

RICH CASH COIN
WHITE PAPER



目次

- RICH CASH誕生の背景
- RICH CASHの必要性
- RICH CASHのOn - Lineプラットフォーム
- RICH CASHのビジネスプラン
- RICH CASHネットワーク
- RICH CASH作業証明
- RICH CASHブロックの作成と補償システム
- RICH CASH暗号化アルゴリズム
- RICH CASHスポンジ構造
- RICH CASH INSIDE
- RICH CASHトランザクションの処理および承認
- RICH CASH POLICY



RICH CASHの誕生の背景 1

- グローバルネットワーク会社は、既存Off-Lineマーケティング方式でOn-Lineに転換する形で進化している。
既存のOff-Lineの構造は、人と人との出会いの方法を通じた流通方式で時間と場所の制限があった。これグローバル化するためには、時間と場所のコストを削減するOn-Line上のマーケティング方法でOn-Lineショッピングモール、各種SNS、オープンマーケット、ソーシャルコマースなどを通じたネットワークを広げている。これは、地域と言語の障壁を崩し、世界が一つになるネットワークに位置付けられる構造となるのだ。
- 物流、流通はグローバル時代に合わせて進化しているが、請求の構造は、国家間の規制や各種手数料などにより、時代の足合わせに便乗していないことが現実である。これを解決するための方案としてRICH CASHが決済手段として誕生する。
- RICH CASHは、国家の間で誰でも自由に取引できる脱中央化の基本となる決済手段である。
- 世界中の有名企業でさえも、仮想通貨市場に参入している。従って、RICH CASHは仮想通貨を利用したOn-Lineネットワーク会社を設立した。
- ネットワークの形態であって売上高に応じたコミッションが発生している。売上高と手数料を支払う上で、それぞれの国別の通貨が異なるため、各地域の支社を置くべきである。もちろん支社なしでドルで支給している会社も存在するが、両替の手数料が高く、さまざまな不便な状況が発生してしまふ。
- インターネットショッピングモールをベースにして、全世界を一つに束ねており、ネットワークマーケティング、グローバル事業の欠点であった支社設立は、On-Line国際暗号通貨取引所が外貨両替の役割をして売上とコミッションの支払いを円滑にすれば解決できる。
- RICH CASHは二つのマーケティングの利点を集めれる媒体となるだろう。



RICH CASHの誕生の背景 2

細かく分けられたトークンの取引は、資金調達、クラウドファンディング、金融商品のブロックチェーン上の取引を活性化させるだろう。軽いクライアントプログラムを介してインストールプロセスは簡単に行われ、エンドユーザーの参入障壁が低くなる。

「すべての可能なブロックチェーン技術のアプリケーションが試みなり、その中でp2pデジタル通貨の使用頻度が最も高いものである。」(Ryan X Charles)

私たちは、流通市場での通貨が持つ有用と限界を既に経験しており、また、不動産開発、市場での金融の重要性を理解している。RICH CASH COINはNxtとWaveコインが提示した方法を応用して、両方の市場での通貨が持つ役割を忠実に履行し、既存の限界を克服しようとする。

既存の限界とは、

- 1.大規模な資本のほか、小規模資本はファンドに参加する難しさ
- 2.ファンドに参加した場合でも、事業の進捗状況を継続的に観察する困難
- 3.収益配当手続きの透明性を担保しにくく配当順位が落ちる

この部分で難しいのは

- 1.流通市場と不動産開発の市場で使用されるコインまたはトークンはそれぞれ隔離する必要があるだろう。両方の市場は、リスクとリターンが異なるためである。
- 2.両方の市場で使用されるコインは、互いに補完関係を持つことができますか。

私たちは、RippleとWaveを介して上記の提示した問題点を解決し、ビジネスプランを介してRCSの有用性を言うようになる。

- カスタムトークンの生成、削除、転送
- 分散トークン取引所、買収価と売度価をマッチングさせる
- あるカスタムトークンを他のものと交換できる。(asset-to-assetトレーディング)。各国の通貨と連動されているトークンを作成することもでき、従って従来の取引インフラを再現できる。



RICH CASHの必要性

- 価値の転送のために、メインネットワークトークンを使用するのは自然なことだが、問題点もいくつか発生してしまう。流動性と変動性が大きいコインを使用すると、販売者にとっては負担になる。
- 分散通貨の価値の貯蔵庫としての使用を妨害する不安定性を緩和するために通貨として使用されている合計トークンの量は(少なくとも技術の開発初期の時点でも)制限されるべきである。
- 国別中央化されたブロックチェーン通貨を公に作ると、外部的な金融機関が登場するわけだ。彼らの役割は、実際の通貨資産の不足流動性を拡張させ、KYC / AMLコースを提供できる。支払いインフラストラクチャを維持することは、分散ブロックチェーンとして完全にアウトソーシングされる。
- 国家的な通貨をブロックチェーンに記録する方法はNxtブロックチェーン上でCoinUSDトークンに試されたことがある。まるでRippleのゲートウェイのアプローチと似ている。これらの戦略が新たに登場するブロックチェーンと競合でき、金融機関がブロックチェーンと一緒に働くように誘導する。
- 金融機関と企業にブロックチェーンは、コミュニティベースのプロジェクトの機能を実装する効果的な枠組みだと思う。ブロックチェーンの技術は、特性上、高頻度の取引をサポートすることはできない。一元化された解決策は、多くの取引量を瞬時に解決することができる。しかし、これは必須ではない。ブロックチェーンは、自然に運営されなければならない。たとえばクラウドファンディングトークンを発行し、金融的な流れを、コミュニティの中で管理しなければならない。
- キックstarterのように、将来的にリリースされる商品に一定の金額を投資される方法が存在するが明らか限界がある。従来の方法の投資家は、投資しただけの他の誰かに途中で販売するのは難しい。一方、ブロックチェーンベースのシステムでは途中で販売するのは自然であり、ブロックチェーンではRCSは交換や振り替えが容易である。
- 証券の発行は、金融監督院の規制を受ける。トークンは、証券と比較されるが、コインの価値が上昇すると予想されたり利益を配当されると予想される場合にそうである。しかし、ブロックチェーンは完全に規制されていない特性が存在し、証券に比べて容易に発行されて取引できる。
- コインの価値が一人一人違うように感じられるのは、次の原因である。
- とある資産の価値は、その資産を保有することで流入される期間の現金の流れの見込額とキャッシュの流れを、各期間の金利で割引した金額を合算した金額である。資産を買い入れて保有して得る利益を式で表すと、次のようだ。
- 上記の公式でIRRは、内部の純利益率と呼ばれるが、主に自分が調達した資本の金利で使われる。この金利は、リスクプレミアムが含まれ、リスクを好む程度に応じて価値が異なって表現される。
- RCSは、このような価値の変動を緩和し、安定性を付与しようとする。



RICH CASHの On - Lineプラットフォーム

- グローバルネットワーク会社は、すべての業務をインターネットショッピングモールで実現できるプラットフォームを作った。このインターネットショッピングモールのプラットフォームで購入、返品、コミッションの支払いなど、すべての通貨の機能は、RICH CASHを使用して決済して支給するシステムに一元化させた。また、それぞれの国ごとに異なる通貨で発生する問題点と不便な点は、On - Line国際暗号通貨取引所プラットフォームを使用して、誰でも簡単に登録して、国家間の外国為替取引をしやすく取引して相場の差益と利益のビジョンを現実化させ、これを自国の通貨で現金化できるように解決した。
- RICH CASHはOn - Lineショッピングモールのプラットフォームを利用して、全世界を一つのマーケットに創り上げてた。それぞれの国の商品をプラットフォームに登録し、世界の誰でも上品で、独特な商品、または商品化されたが、購入プロセスが複雑で、簡単に購入できないような商品を簡単に購入できるようにしたプラットフォームです。初期プラットフォームに登録されている製品テーマは、化粧品、健康食品、化粧品(ケア)、ブランド品(自動車、バッグ、時計、財布、ベルトなど)であり、製品テーマは徐々に拡大開発する予定である。このような製品は、購入者が購入の意思を表現して決済が行われ、その国からの発送となるシステムとして簡単に触れるように作られる。
- また、販売方法が一般消費者の層とネットワークマーケティング層でも使用できるように実装した。
- 世界中の製品が一つになって、世界中のバイヤーが一つになるプラットフォームです。これを購入する決済手段としてはRICH CASHで可能になる。
- RICH CASHは、グローバルに一つにまとめる一つのつなぎで生まれ変わる。



RICH CASHのビジネスプラン 1

- RICH CASHは、グローバルネットワークOn-Lineショッピングモールの基軸通貨として使用されて、30万人以上の多国籍のメンバーによって使用される。製品の購入とコミッションはRICH CASHのみを使用している。
- 現在30万人の会員が定期的取引する暗号通貨はほとんどなく、このように確実用途で十分な取引量を確保したRICH CASHは使い道が不明なほとんどのアルトコインと比べて競争優位にある。また、On-Lineショッピングモールのグローバルネットワーク層と一般層が一体となって動き、市場競争力と消費者権益に一步進むようになる。これは、より多くの消費者と会員が増えるし、また、RICH CASHのグローバル最高の基盤となる構造を作り上げられる。
- ネットワークマーケティングに続くインターネットショッピングモールアリババ、アマゾンドットコムなどは、インターネット上で全世界を一つに統合して個別に支社を運営していなくても、物流流通が可能にした。もちろん、インターネットショッピングモールは、ネットワーク方式ではないのでコミッションを支給せず、売上を、ビザもしくはマスターカードで支払えばいいから可能なことであった。
- この二つのマーケティングの利点だけを集めて、新しいマーケティングプラットフォームを作って売上や手数料をその地域の通貨に変えなければならない問題は、RICH CASHを使用して解決した。



RICH CASHのビジネスプラン2

- 先採掘1次発行量200,000,000RCSは流通市場で使用される。取引に使用される財貨の市場価格と連動させることでコインの内在価値を維持するだろう。オンラインショッピングモールの消費者は、各自が必要とする物品を購入するために現金の代わりにRCSを使うようになって、購入に必要なRCSが相場を超えると一定のRCSを保有しているユーザにAirdropしてコインを保有しているユーザは、利益を得て、コインの相場は財の市場価格と同じレベルで維持できる。ショッピングモール運営の利益も、コインの価値を上昇させる。
- また、不動産開発市場に使用される。Target不動産の投資規模を考慮して、市場に流通し、完成した建物の各号室と交換する権利を市場価値と連動して付与されるものである。すなわち、流通コインの数は、ターゲットの不動産開発に必要な自己資本と投資による利益の限度内で発行量が決定されるという意味である。RCS投資不動産1号の事業計画書で詳細に説明しましょう。
- 両方の市場で使用されるコインは、最初の取引管理の財布を別々に指定して、相互の妨害されないように制限管理することになることや、管理者の承認に相互交換は可能になる。
- 不動産開発財布を通じたコインは、実物不動産の購入、仲介料、使用料、管理費の支払いに使用される予定である。
- 一定の時期になってTarget投資不動産の総投資額が200,000,000RCSに達した場合、不動産投資コインはハードフォークまたはコインスワップを通じて不動産専門コインに変換することになりRCSは流通専門コインと不動産専門コインで分離、運営されるものでありその期間は、1年6ヶ月～2年かかると予想する。
- 流通市場で使用されるRCSは上場を原則として、不動産投資に使用されるRCSはPrivate saleを原則とするが、相互の価値warrantyを考慮して設計する。



RICH CASHのビジネスプラン2

- Target 不動産
- 事業名 RCS永登浦オフィス新築事業
- 位置 ソウル市永登浦洞1街121-3
- 地区 1種地区単位(一般商業)
- 大地 237.92坪
- 総面積 1,587.52坪
- 容積率 590.41%(予想)
- 号室数 商店1室オフィス162室(9.42坪138号室、11.37坪24号室)
- 総売上高 30,153,860,000
- 土地費 90億
- 工事費 8,173,897,000 工事関連費1,271,919,000 租税公課金814,439,000
- 販売費 2,850,646,000
- 保存登記 245,880,000
- 金融費 2,525,385,000
- 事業益 3,626,477,000
- 分譲性 非常に優れ

- 現在の状態
- 土地 土地の契約完了土地使用承諾書を発行
- 施工 アイレックス建設(株) ツイン建設(株)施工参加意向 工事費の見積り算出中bidding予定
- 金融 水産協同組合中央会、驛三金融センター、OK貯蓄銀行、Woori銀行貸主団参加意向
- 信託 国際信託 Hana資産信託 ムクゲ信託 コリア信託 信託参加意向
信託費および金融費の削減のために担保信託代理事務を進行する予定(自己資本50億条件)
- 分譲 2ヶ月間の販売責任条件(未販売量を全額買収)したがって枚数意向のある方は、事前に意向書の提出を願う
- 設計 5/24日の永登浦区庁審議書籍受付。担当者との許認可問題口頭協議完了した状態
- 着工と分譲 2018年10月の予定



RICH CASHネットワーク

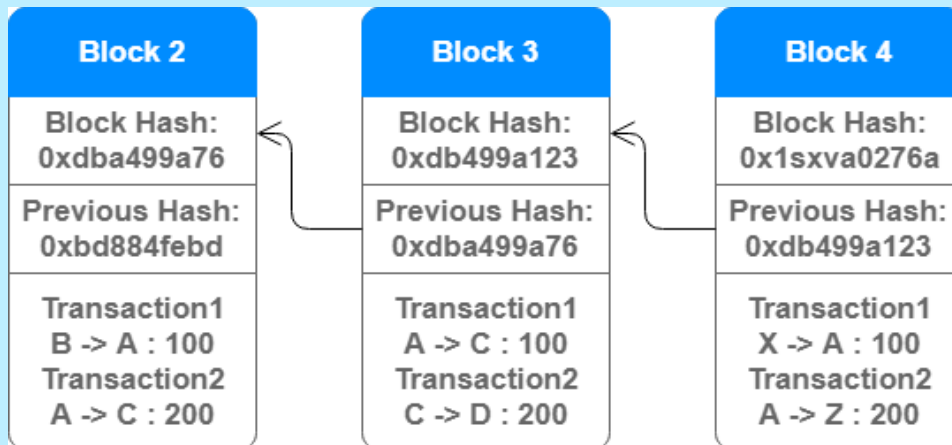
ブロックチェーンネットワークは、大きくブロックチェーンのノードとブロックチェーンクライアントとして構成されている。

ノードは、トランザクションを保管し、承認し、分散合意の役割を担当し、クライアントはトランザクションを作成し、取引の履歴を確認する役割を果たす。

ノードは、二種類のデータ基盤を持っているが、一つは正しいトランザクションをすべて保持するブロックチェーントランザクション保管データ基盤であり、

他の一つは、保存されたトランザクションをアプリケーションに適用するアプリケーションのデータ基盤である。ノードが持っている、上記の最初のDBがすぐにブロックチェーンという特異な構造に設計されている。

トランザクションを記録したブロックは、P2Pネットワークを介して反映され、複数のブロックの中から、事前に合意された方式による適切なブロックを前のブロックに続く。





RICH CASH 作業証明

RICH CASHは、基本的に作業証明方式の合意アルゴリズムを採用する。

作業証明はkeccakハッシュ関数を利用した暗号化ハッシュ値を見つけるプロセスである。

RICH CASHの作業証明方法は、基本的に知られているビットコインのそれと類似している。

しかし、従来の作業証明方法は、大量のトランザクションによる制限とブロック生成タイム10分という遅い速度の限界を持っている。

RICH CASHは、これらの問題点を克服しようとKeccak(SHA-3)ハッシュ関数を利用して、GPU方式の作業証明方式(Proof of Work)を採択した。

ただし、公開採掘のための埋められたコインのブロック間の発生時間は5分であり、毎日のブロック数は、288ブロックが生成され、ブロック補償は40 RCSであり、1日最大採掘補償量は11.520RCSに区分される。難易度は、1ブロックあたりの難易度を適用する。

RICH CASHの最大の特徴は、決済手段としての機能と技術的な部分での5分単位の最大ブロック数とブロックの生成に伴う補償量を決めて置いて公開採掘が可能にしたという点だ。

通常の決済手段としてのコインは100%の両方を先採掘して使用するが、RICH CASHは80%のみ先採掘し、20%は公開採掘を適用するということである。流通して使用されているコインのほか自由採掘を介して参加をするユーザーを確保することを基に置いている。

公開採掘される2.2億RCSの総採掘期間は約52年に設計された。

コインの最初の0~9のblockまで補償コインは0 RCSであり、

10番目blockの補償が8.8億RCSになる。

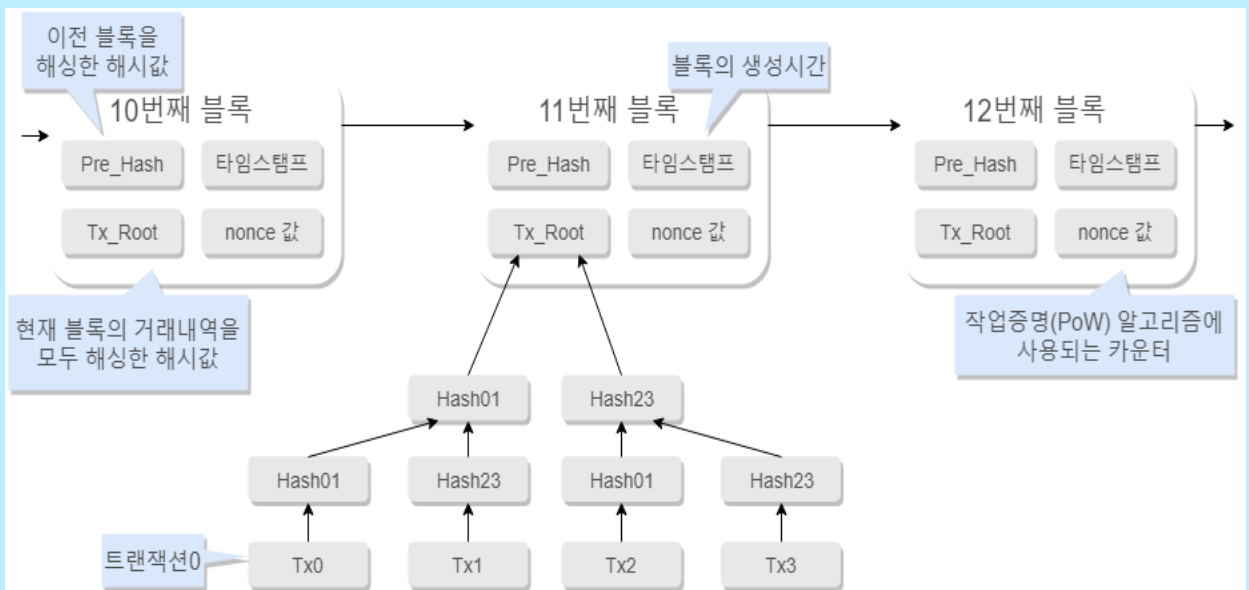
11番目以降の各blockあたりの報酬は、8 RCSに固定される。

採掘コイン総額が2.2億RCSになる瞬間(5,500,010 blocks)から各blockごとに補償コインは0 RCSになる。



RICH CASH 블록이 생성과 보상 시스템

RICH CASH 블록의 생성 시간은 5분 이내이다. 매일의 블록 수는 288 블록이 생성되며, 블록 보상 시스템은 40 BLSK이며, 1일 최대 채굴 보상량은 11,520 BLSK로 구분되어, 1 블록의 생성당 난이도는 상향 조정되며, 보상을 적용한다.





RICH CASH暗号化アルゴリズム

暗号アルゴリズムのうち、ハッシュ関数 (SHA: Secure Hash Algorithm) は、メッセージの整合性コードや電子署名などのセキュリティーの様々な分野で使用される不可欠な暗号アルゴリズムとして、1993年SHA-0が発表されて以来、SHA-1、SHA-1の振替であるSHA-2系列のSHA-224、SHA-256、SHA-384、SHA-512などが発表された。

SHA-1、SHA関数の中で最も多く使われており、[TLS](#)、[SSL](#)、[PGP](#)、[SSH](#)、[IPSec](#)などの多くのセキュリティプロトコルとアプリケーションで使用されている。

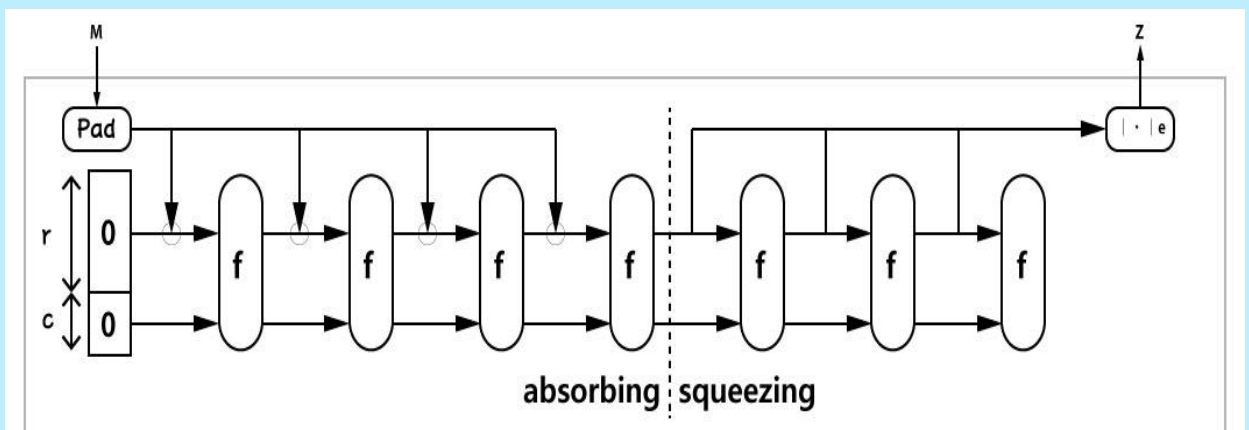
SHA-1は、以前に広く使用されていた[MD5](#)の代わりに使われたりもする。しかし、SHA-0とSHA-2への攻撃が発生し、MD5の脆弱性が発見に応じて、SHA-1と大差がないSHA-2さらに、いつ攻撃されるかわからない状況に置かれた。ビットコインは、SHA-2に分類されるSHA-256アルゴリズムを使用する。

これを対策したのがSHA-3である。

SHA-3は、米国国立標準技術研究所 (以下NSIT) が2015年8月に発表した暗号化ハッシュ関数である。

SHA-3は、従来のSHA-1、SHA-2ハッシュアルゴリズムの脆弱性を補完するために、5年の公募を通じて提出された64件の暗号アルゴリズムを比較分析して最も適切なものを選定する過程を進行したが、その結果、次期SHA-3ハッシュアルゴリズムでKeccakが最終選定された。

SHA-3はSHA3-224、SHA3-256、SHA3-384、SHA3-512の4つのハッシュ関数とSHAKE128、SHAKE256と呼ばれる2つの拡張可能な出力関数で構成されており、スポンジ構造で構成されているので、スポンジ関数と呼ばれる。



SHA-3のスポンジの構造



RICH CASHスポンジ構造

SHA-3は、スポンジ構造としてビットの順列を持つ関数とメッセージをパディングするパディング関数を利用してメッセージダイジェストを出力する。bビットは $b \in \{25, 50, 100, 200, 400, 800, 1600\}$ で定められており、 $b = r + c$ でrというbitrateとcのセキュリティパラメータに分けられる。rはbよりも小さい正の整数でf関数の入力ビットを意味し、cは、 $b-r$ 値を持つ正の整数である。

メッセージはパディング関数を経てrの倍数ビットになるようにパディングされ、このメッセージをrビットずつ切った値とrのXOR演算値をf関数の入力として使用される。

前f関数の出力値がメッセージとXORされた後、次のf関数の入力値として使用されているプロセスが繰り返され、メッセージを吸収する過程が行われる。

概要	Keccakスポンジ関数
設計者	Guido Bertoni, Joan Daemen, Michaël Peeters and Gilles Van Assche
実装	拡張可能な出力の関数(XOF)、すなわち任意の出力の長さを持つハッシュ関数の一般化
構造	スポンジ構造
プリミティブ	bが25、50、100、200、400、800、または1600ビットのKeccak-f[b]の置換のいずれかです。FIPS202とSP800-185標準の範囲で最大の順列Keccak-f[1600]が使用される。それにもかかわらず、限られた環境で、より小さな(または「より軽い」)順列を使用できる。
パラメータ化基準	容量cとビットレートr
インスタンス	インスタンスはKeccak[r, c]で表示します。容量cは一般攻撃の実証されたセキュリティの強度を決定する。つまり、セキュリティレベルnビットである場合に、容量は $c=2^n$ でなければならない、合わさればr + cは25、50、100、200、400、800、および1600ビットのうちの順列の幅でなければならない。
地位	3GPP TS35.231、FIPS202およびSP800-185で標準化されたSHA-3の競争で優勝



RICH CASH INSIDE

スポンジ構造になっているSHA-3は、SHA-2が出力可能なメッセージダイジェストのサイズをすべて出力ができ、暗号関数が持っている特性を完全に備えているので、基本的にSHA-2を使用したすべての場所で使用が可能である。

また、SHA-3は、高並列構造を持って、メモリアクセスのインタリーブ方式を使用するため、効率が優れている。

既存のSHA-2ハッシュアルゴリズムの脆弱性から比較的安全である。

すべてのプラットフォームで、既存のSHA-2ハッシュアルゴリズムよりも処理速度が速い。

SHA-3は、出力の長さを拡張することが可能である。

Keccak Treeハッシュ関数は、MD5ハッシュアルゴリズムよりも性能的に優れているだけでなく、処理速度も比較的同等かいくつかの数のプラットフォームでは、優位を占めている。

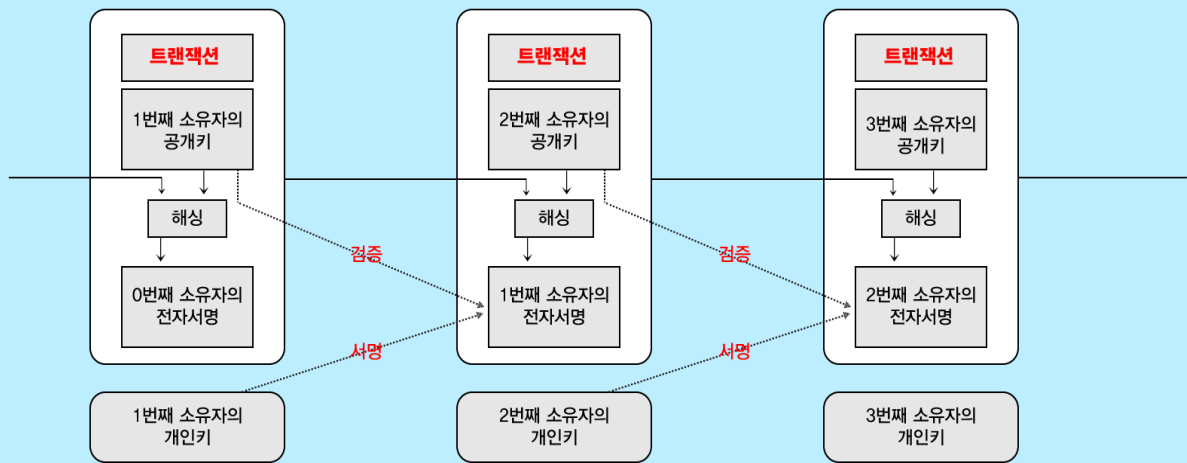
Cycles / byte	Algorithm	Strength
4.79	keccakc256treed2	128
4.98	Md5	< 64
5.89	keccakc512treed2	256
6.09	Sha1	< 80
8.25	Keccakc256	128
10.02	Keccakc512	256
13.73	Sha512	256
21.66	sha256	128

主なハッシュのアルゴリズムとの性能の比較表



RICH CASHトランザクションの処理および承認

ネットワークでは、トランザクションが発生した場合、ミルチェーンは、次のステップで、トランザクションを処理する。



- 1) 利用者が秘密鍵を使用して振替取引Aを適用する。
- 2) 振替取引Aに対応するハッシュ値と識別コードが発行される。
(TxID) - これにより、振替の内訳は、すぐに確認することができ、識別コードを介していくつか所属の採掘者が採掘に参加できるかどうかが決まる。
- 3) 振替取引Aの詳細を採掘者が自分の振替プールに入れて保管する。
- 4) 採掘が目標値ハッシュに成功してブロックの作成権限を得ると、新しいブロックに振替申し込み内訳を「優先順位」から順番に入れて発行する。
- 5) 振替取引A内訳を盛り込んだブロックがネットワークに電波される。
- 6) 振替取引Aが1回確認 (confirmation) される。



RICH CASHトランザクションの処理および承認

- 7) ネットワークを介してそのブロックを電波(ダウン)を受けた次の採掘者がブロックを作成する権限を得て次のブロックを生成する。
- 8) 振替取引Aを入れたブロックの「次のブロック」がネットワークに電波される。
- 9) 振替取引Aが2回確認される。
- 10) 振替される主体が振替履歴を承認すると、振替確定 (Settlement) する」

SATOSHIが設計したビットコインプログラムは、各6回の交換の確認を受けて再交換(使用)が可能ないように設計されているが、これは遠くのノードからほぼ同時に、ブロックが作成されることを想定したものである。

まず、生成されたブロックが到達する前に、新しいブロックが生成される場合、チェーンは分岐が発生するが、この場合には、より長い方の鎖が採用され、これ以上のブロックをイオガジないチェーンは消滅するだろう。

ビットコインが6コンフォームの後に再利用が可能に設計された理由は、トランザクションを含んでいるブロックが生成(1コンフォーム)された後、少なくとも5ブロックが付くようになるとそのチェーンは生き残るされ、そのトランザクションは、もはや問題が発生しないことを意味している。

この時、消滅したブロックに含まれていたトランザクションは、元の状態に戻り、ブロックに追加されることを待つ。ビットコインのブロック生成時間が平均10分で、こんなに演算量が大きい作業の場合、ほぼ同時に、ブロックが生成される場合が多くない。

また、長さが同じチェーンの衝突も間もなくブロックチェーンの長さが変わって四半期による衝突が解消される。実際、過去1年間に発生した四半期は2~3ブロック以内に解決されている。

また、多くの事業者は、ビジネスの領域でユーザーの満足のためにコンフォームの手順を調整して、1~2コンフォームだけで振替の確認が可能のように処理している。

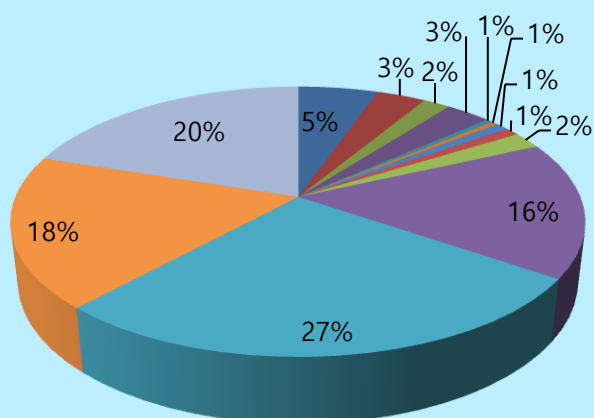


RICH CASH POLICY

- COIN NAME : RICH CASH
- COIN略名 : RCS
- COIN単位 : 小数点以下8桁
RP1 (小数点1桁)、RP2、RP3～RP8 (小数点8桁) の単位名で区切る
- RICH CASHアルゴリズム: Keccak (SHA-3)
- RICH CASH用途 : On- Lineショッピングモールの決済ページ、不動産流通コイン
- RICH CASH総埋葬量 : 11億RCS
- RICH CASH公開採掘量 : 2.2億RCS
- RICH CASH先採掘量 : 8.8億RCS

RICH CASH COINの分配は、以下のように細分化される。

区分	配分区分	配分枚数のコイン	割合
コイン運営資金	会社の持分	59,000,000(RCS)	5.36%
	開発費	36,000,000(RCS)	3.27%
	広報マーケティング	20,000,000(RCS)	1.82%
参加者配分	代表	33,000,000(RCS)	3.00%
	開発者	5,000,000(RCS)	0.45%
	運営スタッフ	5,000,000(RCS)	0.45%
	提携社	10,000,000(RCS)	0.91%
	参加者、関係者、顧問報酬	10,000,000(RCS)	0.91%
ON-LINE決済流通コイン	事前 CROWDSALE	22,000,000(RCS)	2.00%
	1次流通コイン	180,000,000(RCS)	16.36%
不動産流通コイン	2次流通コイン	300,000,000(RCS)	27.27%
	1次流通コイン	200,000,000(RCS)	18.18%
	公開採掘	220,000,000(RCS)	20.00%



- コイン運営資金 会社の持分 59,000,000(RCS)
- コイン運営資金 開発費 36,000,000(RCS)
- コイン運営資金 広報マーケティング 20,000,000(RCS)
- 参加者配分 代表 33,000,000(RCS)
- 参加者配分 開発者 5,000,000(RCS)
- 参加者配分 運営スタッフ 5,000,000(RCS)
- 参加者配分 提携社 10,000,000(RCS)
- 参加者配分 参加者、関係者、顧問報酬 10,000,000(RCS)
- 参加者配分 事前 CROWDSALE 22,000,000(RCS)
- ON-LINE決済流通コイン 1次流通コイン 180,000,000(RCS)
- ON-LINE決済流通コイン 2次流通コイン 300,000,000(RCS)
- 不動産流通コイン 1次流通コイン 200,000,000(RCS)
- 公開採掘 1次流通コイン 220,000,000(RCS)



RICH CASH POLICY

RICH CASH은 keccak (SHA-3) 알고리즘に基づいています。

総発行数は11億RCSであり、生活の通貨として獲得と決済を同時に拡散するために8.8億RCSは先採掘する。

RICH CASHは、複数の他の取引所に登録をしてRICH CASHの価値上昇を備えて、2.2億RCSは公開採掘できるように設計された。

難易度が上がった状態で採掘をするには、ハイスペックの採掘機なければならない点を考慮して、誰でも簡単に採掘を可能にするために低い仕様でもよく回るkeccak (SHA-3) アルゴリズムを適用してETHやLTCより生産性が良い。

採掘時に発熱する温度もETHより30%程度しか発生しないから長時間使用ができる。

ブロック間の発生時間は5分であり、毎日のブロック数は2,88ブロックが生成され、ブロック補償は40RCSであり、1日最大採掘補償量は11,520RCSで区切られますが、最大のブロック数とブロックによる補償を適用する。

RICH CASHの最大の特徴は、実物通貨としての機能と技術的な部分での1ブロックの当たり難易度を適用して公開採掘が可能に作ったという点だ。

RICH CASHは生活通貨としての価値のために迅速かつ多様なOn - Lineプラットフォームとして運用しようとしている。

RICH CASHは分散化された世界を実現するために共同体を新たに定義し、定義されたコミュニティと繋げ、繋がった共同体を介して新しい世界を作りたい。

RICH CASHは、社会的・政治的な意味のみ存在していた共同体 (Community) に経済的関係を結びつけることにより、国単位で定義される既存の経済システムを共同体単位で新たに定義し、定義された各コミュニティを以前よりも密接にリンクさせるつもりである。

また、現実の世界 (Real world) だけでなく、仮想通貨の世界 (Crypto-world) とも接続されて無限の拡張 (Infinite scalability) が可能になるだろう。

Coin Name	Richcash Coin
Abbreviation	RCS
Algorithm	keccak (SHA-3)
Time Between Blocks	300 sec (ハイレベル)
Block Reward	40 RCS
Total Coin	1,100,000,000 (11億 RCS)
daily block count	288 blocks
mining coin per a day	11,520 RCS
Rewardable Last Block	5,500,010
Expectation time until Last Block generated	52 years 117 days 6 hours and 10 minutes
maximum block size	2M
pre-mined coin	880,000,000 (8.8億 RCS)